民主党神戸市会議員団　川原田弘子ニュース

ひろこだより VOL. 22

２０１３年４月号

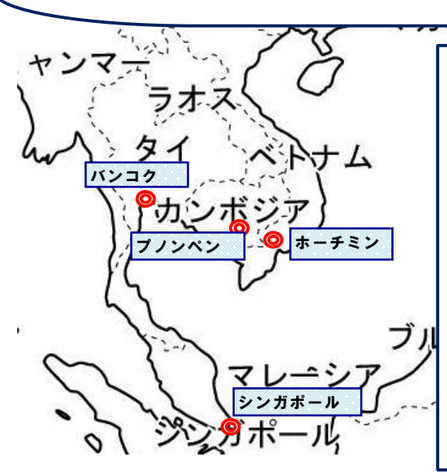
ベトナムのメコン河の風景。コンテナを乗せた船が行き来しています。

カンボジア・プノンペン　災害救援部隊
神戸市寄贈のポンプ車による訓練を見学

シンガポール、タイ、カンボジア、ベトナムを視察しました。

～ＡＳＥＡＮ４か国視察報告～

神戸市では、２０１２年、「アジア進出支援センター」を立ち上げて、アジア進出を目指す市内中小企業の支援を開始しています。その中でも、チャイナリスクを避けるため、成長著しい東南アジアへの進出を検討する企業が増えています。一方、シンガポールは先進国であり、その医療クラスターは周辺諸国の医療の要ともなっています。今回、シンガポール・バンコク・プノンペン・ホーチミンと訪問し、下表に示す様々な機関の方々と面談・視察を行ってきました。



＊＊＊　調査・訪問先　＊＊＊

★シンガポール
（1）ゼネラル・ホスピタル（略称：SGH）
（2）アジアメディカルセンター
（3）Mt. エリザベス・ノビーナ病院

★タイ　バンコク
（4）株式会社ヤマシタワークス
（5）ジェトロ・バンコク事務所

★カンボジア　プノンペン
（6）ジェトロ・プノンペン事務所
（7）プノンペン　経済特区
（8）ラガーコーポレーション
（9）カンボジア王国軍 Brigade70

★ベトナム　ホーチミン
（10）ジェトロ・ホーチミン事務所
（11）ひょうご国際ビジネスデスク

ASEAN（アセアン）とは？

東南アジア諸国連合（Association of South-East Asian Nations）の略称。

東南アジア 10 か国の経済・社会・政治・安全保障・文化での地域協力機構。

ＡＳＥＡＮ地域の人口は６億人を超える。加盟国合計の GDP(2010 年)は、１兆８０００億ドル(約 145 兆円)であり、日本の GDP の約 30%の規模である。

＜加盟国＞
○インドネシア　○ブルネイ
○シンガポール　○ベトナム
○タイ　○ミャンマー
○フィリピン　○ラオス
○マレーシア　○カンボジア

調査の目的１

～シンガポール～

神戸市の主要事業である「医療産業都市」のエリアに、H２５年春「神戸低侵襲がん医療センター」、「西記念ポートアイランドリハビリテーション病院」の二つの病院が開院します。更に、生体肝移植において世界的な権威で知られる田中紘一先生（元京都大学医学部付属病院長）をリーダーとする「神戸国際フロンティアメディカルセンター病院（仮称、以下ＫＩＦＭＥＣ病院と称す）」が H２６年度内の開院を予定しています。ＫＩＦＭＥＣ病院は、120 床の病床のうち 20 床を生体肝移植用とし、国内患者を優先しながら、海外からの患者を受け入れる予定で、他の 100 床は消化器系の癌や肝臓病の内視鏡治療などに対応する予定です。

田中先生は、中東やアジアなどで技術指導した経験を生かし、医療の国際ネットワークづくりに取り組まれています。今後、神戸における国際的な医療交流を進めていくにあたって、田中先生が手術や医師の研修で交流のある病院を中心に、シンガポールにおける医療クラスターについて調査を行いました。

1 シンガポール　シンガポール・ゼネラル・ホスピタル（SGH）病院

ＳＧＨの経営を行っている、シン・ヘルス（SING HEALTH）の幹部の方々より、説明を受け、質疑応答

田中先生が前日使用の手術室

植民地時代の時計台は今後も残すそうです

イスラム諸国からの患者さんも多い

病院に入る際のセキュリティ

SGHの歴史は古く、遠くイギリス植民地時代に端を発します。伝統ある総合病院ですが、伝統のみでなく、最先端の医療を提供できる体制がとられており、また、広大な敷地の中には、心臓・眼科・歯科の専門センターのほか、アメリカ・Duke大学の医学部大学院が誘致されるなど、アジアーの医療クラスターが形成されています。

ドクターは1266人、看護師など医療スタッフは10622人という規模で、周辺の大学や研究機関との連携により、研究、人材育成、最先端の医療提供にも力が入れられています。

現在、地下鉄の駅に近い場所に新しい病院建設などが進められており、更に規模が大きく、近代化が行われようとしているところでした。「今後目指す姿は？」という私たちからの質問に、「あくまでも高度な医療技術を人々に提供できる、学術的に優れた公的な病院です。」というお答えでした。

SGH 病院、Mt. エリザベス・ノビーナ病院の視察には、SGH で前日に生体肝移植の手術を執刀し終えたばかりの田中先生にも出席していただきました。田中先生は、これまで、SGH 病院において多数の手術にご協力されており、シンガポールの若いドクターの先生方を指導されてきています。今後は、例えば、人材交流を含めた病院間連携などについて、お互いに協力し合える可能性を確認しました。

2 シンガポール　アジア・メディカル・センター（AMC）

「シンガポール・バイオポリス」
シンガポール政府の設立したバイオメディカル（生物医療工学）の官民連携の研究所。

バイオポリスの中にあるAMC（アジア・メディカル・センター）を訪れ、尾崎センター長と面談を行いました。AMC は、日本の企業集合体の研究支援のためのシンガポール現地法人で、300社以上の登録があります。医療支援と、医療機器の進出支援の部門があります。たとえば日本で研究開発された新しい治療法や医療機器を、シンガポールの病院や大学と連携して臨床研究を行い、プロトタイプのものとして確立させていくなどの支援を行います。今後、医療機器の開発など連携の可能性も考えられるのではと感じました。

シンガポールの医療保険について

シンガポールには、日本の国民健康保険のような医療保険制度はありません。代わりに国民に一定の割合で強制的に貯金を義務付けるＣＰＦという制度があります。ＣＰＦの中に、メディセーブという医療費支払いのための強制口座があり、入院や特定の外来診療（慢性疾患やＣＴスキャンなど）の際に、引き出すこと可能です。大半の国民は、更にメディシールドという公的医療保険に加入して、入院治療費などに備えていますが、メディセーブ、メディシールド、どちらも一般外来診療時には使うことができません。

ＡＭＣにて　尾崎センター長と

3 シンガポール　Mt. エリザベス・ノビーナ病院

シンガポールでは、全国民が公的保険に近いものには入っていますが、公的病院は12か所しかなく、大変混み合っています。それで、民間の保険を買ったりしています。民間の病院は、値段の設定は自由で、ノビーナ病院は、最も高級なクラスにあたるそうで、2～3割は海外からの患者。インドネシアからが4割くらいを占めており、ビジネス面で進んでいてもまだ医療のレベルは低いそうです。